



—将来にわたり公共施設機能を適切に保つために—

公共施設等総合管理計画を策定しました

計画策定の背景

高度成長期に建設された公共施設や各種インフラ（道路、橋りょう、上下水道など）の老朽化対策が全国的に大きな課題となっています。

本市でも、今後、各種施設が更新や大規模改修の時期を迎える一方、人口減少や少子高齢化の進行により厳しい財政状況が見込まれるため、公共施設などの維持管理や更新が難しくなることが予想されます。

そのため、公共施設を長期的・計画的に、**更新・統廃合・長寿命化**することを目的に、平成29年3月に施設管理に関する基本方針を定めた『公共施設等総合管理計画』を策定しました。

計画期間と対象施設

■計画期間

将来人口や財政見通しなどをもとに長期的な視点で更新費用を推計するため、平成29年から58年までの**30年間**とします。

■対象施設

学校、庁舎、市営住宅、体育館などの「**公共施設**」のほか、道路、橋りょう、上下水道などの「**インフラ資産**」を対象とします。

将来人口と少子高齢化

本市の人口は、平成7年の6万3,556人をピークに減少が続き、平成27年の国勢調査では5万4,187人まで減少しました。今後も、この傾向は継続することが考えられ、平成52年には4万2,800人まで減少すると推計されています。

また人口構造は、生産年齢人口の割合は減る一方、老年人口の割合は増加が見込まれており、公共施設に対する住民ニーズも変化することが考えられます。

公共施設の老朽化が進行

公共施設の多くは、昭和30年代後半以降に順次建設され、築30年以上の施設が全体の半数以上を占めています。

また、平成26年度末時点で、すでに耐用年数が到来している施設は全体の15・4%、平成37年度末には54・5%を占めるまでに増加し、老朽化の問題に直面しています。

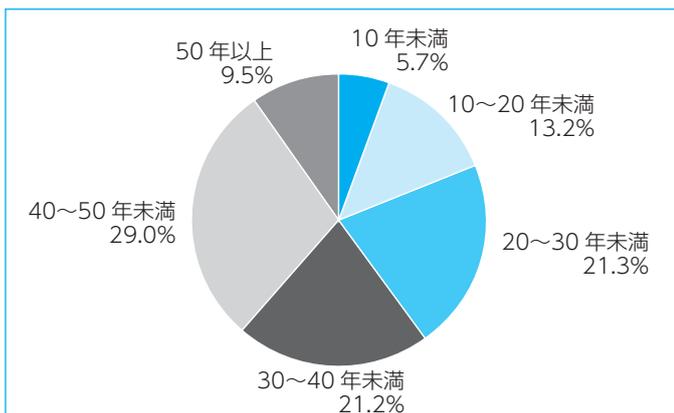
老朽化している施設は、耐震改修工事などを随時進めています。今後も大規模改修や建て替えなどの対応が必要になり、市の財政の大きな負担となります。

＜人口の将来推計＞

人 口	平成27年	平成52年
総人口	54,187人	42,800人
年少人口(0歳～14歳)割合	10.7%	12.8%
生産年齢人口(15歳～64歳)割合	58.0%	49.2%
老年人口(65歳以上)割合	31.3%	38.0%

※平成28年3月公表「塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推計値から

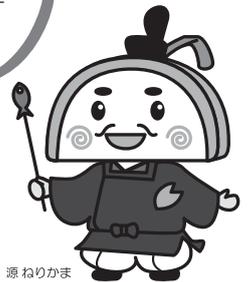
＜築年数別の延床面積＞ 平成26年度末現在



公共施設等の管理に関する基本方針

- ①点検・診断等の実施方針
定期的に点検・診断を実施する
- ②維持管理・修繕・更新などの実施方針
修繕が必要な箇所が判明した場合、優先度を付けて修繕を実施する
- ③安全確保の実施方針
安全な利用を担保できない場合は、速やかに安全確保対策を講じる
- ④耐震化の実施方針
防災上の重要度を踏まえ、計画的に建て替えや耐震改修、除却(解体)を実施する
- ⑤長寿命化の実施方針
適切な維持管理・予防保全を実施し、施設の長寿命化に努める
- ⑥統合や廃止の推進方針
今後の人口減少や人口構成の変化に伴い、積極的に複合化などを検討する
- ⑦管理を実現するための体制の構築
職員向け研修会の実施や市民と連携して取り組みを推進する

「公共施設等総合管理計画」では人口減少や公共施設の老朽化に対応するため、公共施設の管理に関する基本方針をまとめています。



源 ねりかま

公共施設の更新費用

公共施設などの更新費用は、歳入・歳出の状況および人口減少などを加味し、シミュレーションすると、今後30年間で総額1,090億円の費用が必要になります。

一方、維持更新に使える金額は858億円で、差し引き232億円の不足が見込まれます。

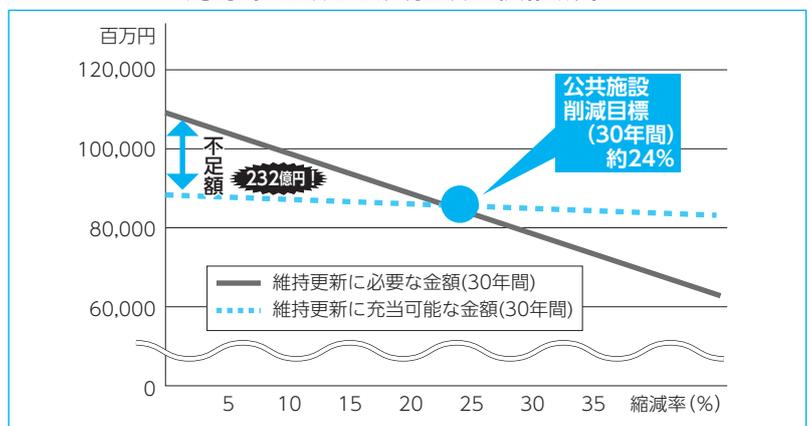
この試算から、「公共施設等総合管理計画」では、今後の財源不足を補うために、公共施設を概ね24%縮減することを目標に掲げています。

計画の推進と今後の取り組み

将来にわたり公共施設の機能を適切に保つためには、「公共施設等総合管理計画」の基本方針をもとに公共施設の適正な維持管理や、市民ニーズにあった最適な配置を進めていくことが重要です。

今年度から、施設ごとの再編方針を示す「公共施設再配置計画」を市民の皆さんのご意見を伺いながら、策定します。

<財源不足額と公共施設面積縮減率>



アンケート調査に協力を!

公共施設の利用状況や施設のあり方などを年代別に把握し、「公共施設再配置計画」の参考とするため、市民2,000人を対象としたアンケート調査を実施します。

調査票が届いた方はご協力をお願いします。



問 財政課管財契約係

☎ 35515781

塩子 釜男

と の 気 に な る 話

最近、ニュースで公共施設の老朽化の課題が取り上げられているね。

そうね、右ページのグラフにあるとおり、塩竈市でも公共施設の半数以上が建築から30年以上経過しているの。10年後には施設の多くが大規模修繕や建て替えが必要になるのよ。

それじゃ、市のお金が足りなくなるんじゃない?

市の試算では、建物の維持更新に使えるお金が毎年7.7億円程度不足する結果が出ているわ。人口や税収は減っていくと予想されているから、今後の施設管理はますます厳しくなっていくの。

将来に負担を残さないためにも、今のうちから今後の施設のあり方について考えていかなきゃいけないね。